

平成24年度 九州－山東省(済南) 環境ビジネスミッション派遣事業



平成24年9月

九州経済産業局資源エネルギー環境部

K-RIP主催「24年度九州-山東省(済南)環境ビジネスミッション」の結果概要

- 九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ(以下、K-RIP)と九州経済産業局は、K-RIPと山東省人民政府との環境産業交流に係る覚書(以下、MOUという)(平成22年7月締結)及び山東省環境保護庁との具体的な交流事業の実施にかかるMOU(平成23年12月)に基づき、平成24年8月29日(水)～9月2日(日)の日程で、**山東省済南市へ環境関連企業など17企業・団体、総勢35名**(団長;鶴田 暁 氏(K-RIP会長、環境テクノス社長)、顧問;九州経済産業局長 代理;岡博士 氏(九州経済産業局資源エネルギー環境部次長)を派遣。
- 今回の環境ビジネスミッションでは、ゴミ処理発電施設等の「**現地視察**」、「**セミナー**」、「**MOU調印式(2件締結)**」、「**緑色博覧会への出展**」、「**商談会**」を開催。また、山東省人民政府と環境産業交流について意見交換を行い、今後も相互協力していくことを双方で確認。
- なお、「商談会」では、山東省済南市を中心に、青島市、聊城市、煙台市、日照市、済寧市、濰坊市、淄博市、北京市、上海市、天津市等から44社の中国企業が商談会に訪れ、**合計68件**もの商談が行われ、中国企業の関心の高さが伺えた。商談案件については、今後、K-RIPのコーディネーター、ジェトロ等が、成約に向けて総合的にサポートしていく予定。

【ミッションの行程】

◇ 8/29(水)

- ・出国
- ・ジェトロ青島事務所によるブリーフィング

◇ 8/30(木)

- ・現地企業視察(2箇所)
- ・両国の行政・産業団体トップによる意見交換

◇ 8/31(金)

- ・MOU調印式(2件)／緑色博覧会視察
- ・九州先端環境ビジネスセミナー開催
- ・環境ビジネス商談会

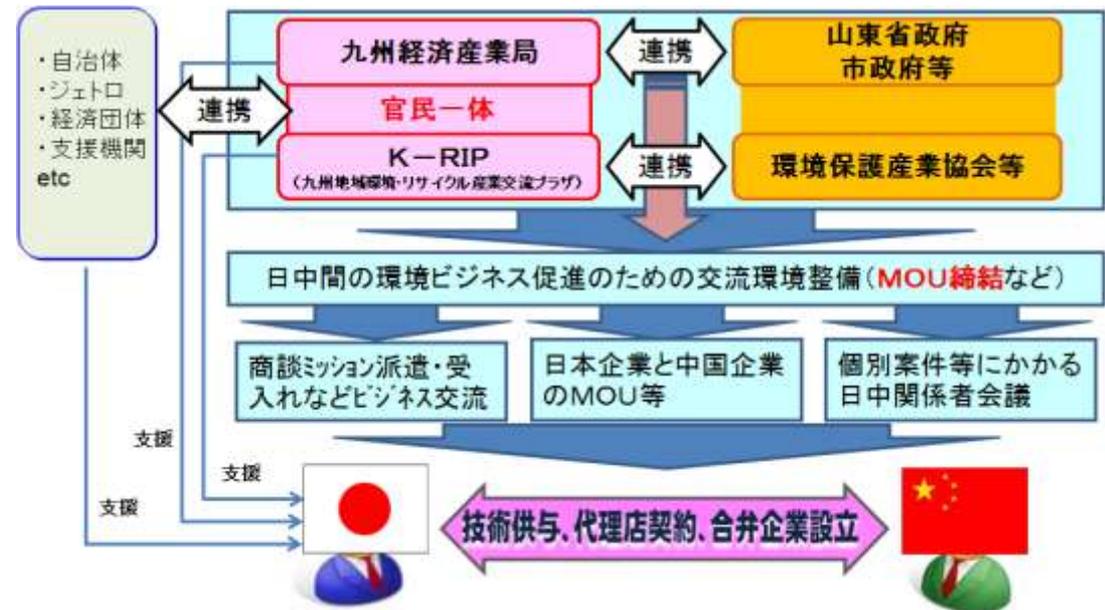
◇ 9/ 1(土)

- ・商談会

◇ 9/ 2(日)

- ・帰国

【K-RIPと山東省との交流スキーム】



1. K-RIP会員企業と山東省企業とのMOU等

(1) 下水汚泥処理システムの導入にかかる業務提携

◆**締結者**：(九州企業)三菱長崎機工(株)
(中国企業)山東省環境保護科学研究設計院

◆**内容**：三菱長崎機工(株)が製造する下水汚泥処理システム「メタサウルス」の中国市場への導入について、山東省環境保護科学研究設計院との間で、業務提携にかかるMOUを締結。

今後、山東省環境保護科学研究設計院が受注する下水汚泥事業について、三菱長崎機工(株)の汚泥処理システムを導入していく予定。



〔メタサウルス全景〕

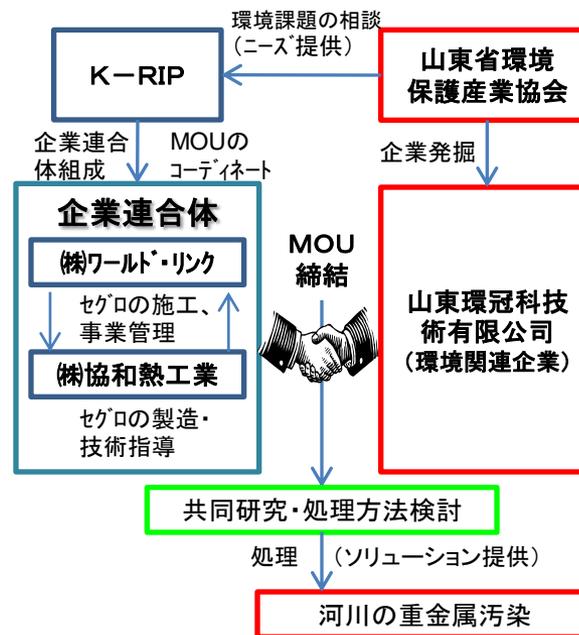


〔MOU調印風景；写真右側が三菱長崎機工(株)山崎常務〕

(2) 河川重金属汚染の共同研究及び処理にかかるMOU

◆**締結者**：(九州企業)(株)ワールド・リンク、(株)協和熱工業
(中国企業)山東環冠科技術有限公司

◆**内容**：山東省環境保護産業協会からK-RIPに対し、河川の重金属汚染対策について相談があり、K-RIPコーディネーターが中心となって、ソリューション企業連合体(株)ワールド・リンク及び(株)協和熱工業の企業連合)を組成。このソリューション企業連合体が、(株)協和熱工業が製作するセグロ液(重金属を無害化する特殊剤)を使って、山東環冠科技術有限公司と、河川の重金属汚染に対する国際共同研究及び処理にかかるMOUを締結。現地の汚染状況に合致した処理方法等確立した後に、セグロ液を輸出していく予定。



〔MOU調印風景；写真右側が(株)ワールド・リンク藤社長〕

〔ソリューション企業連合体のスキーム〕

2. 山東省政府との意見交換概要

(1) 山東省合同会見(山東省政府と各国代表団との意見交換)

◆日時:8月30日(木)17:30-18:00

◆出席者:

《山東省》孫偉氏(山東省副省長)

《日本(九州)側》岡博士(九州経済産業局資源エネルギー環境部次長)

鶴田暁氏(K-RIP会長)

《その他参加国》アメリカ、カナダ、韓国、シンガポール、台湾、ベルギー、香港

◆意見交換:山東省側から、緑色博覧会参加に対するお礼、日本の先進技術等を積極的に学んでいきたい旨の発言。

九州側からは、優れた環境技術を持つ九州企業と、山東省の企業や研究機関との連携は、山東省の環境保全事業をさらに加速する可能性を示唆。

また、九州企業と山東省企業のMOU締結実績等を踏まえ、今回の緑色博覧会での更なるビジネス交流への期待、継続的な環境産業交流の実施による両地域の発展への期待を表明。



〔会見風景:左側が鶴田会長、右側が孫副省長〕



〔会見風景:左側が岡次長〕

(2) 山東省環境保護庁と九州経済産業局の事務レベル会議

◆日時:9月1日(土)10:00-12:00

◆出席者:

《山東省側》蔵一剣氏(山東省環境保護庁科技興国際合作所長)、范斐朗氏(同庁副所長)ほか

《日本(九州)側》松崎治洋(九州経済産業局環境対策課長)

山本諭氏(ジェトロ青島事務所副所長)

◆意見交換:

- ・山東省側から、今回の緑色博覧会に対する九州側の協力について感謝の意を表明。この博覧会に併せて、日中間で2つのMOUの調印がなされるなど、ビジネス交流の更なる拡大を期待。また、本年10月の「エコテクノ」には、山東省から張波氏(環境保護庁長)をはじめ、官民のミッション団を派遣予定。九州で多くの商談を希望。
- ・九州側からは、九州側のミッション団受入や商談会アレンジに配慮頂いたことに感謝の意を表明。また、山東省ミッション団のエコテクノ参加について、山東省の意向も含めながら進めるほか、日本企業との多くの商談機会を設けることを約束。また、商談成立には、双方の政府機関等のバックアップ等が重要であり、フォロー等の協力を要請。

3. 「九州先端環境ビジネスセミナー」

◆K-RIPと九州経済産業局は、山東省政府の協力を得て、環境分野における九州と中国との経済交流の推進を目的として、上記セミナーを開催。

◆本セミナーでは、九州地域の環境ビジネスを広くPRするべく、九州の環境・エネルギー産業の紹介、K-RIPの事業概要、先進的な環境技術のプレゼンテーションを実施。

◆なお、参加者は約70名。



〔鶴田K-RIP会長の主催者挨拶〕



〔包・K-RIPコーディネーターのプレゼンテーション〕

4. 「環境ビジネス商談会」

◆K-RIPは、九州経済産業局、ジェトロ、山東省関係機関の協力の下、緑色博覧会内に出展し、出展ブースにて「商談会」を開催。参加企業は、54社(日本側10社、中国側44社)で、合計68件の商談が盛況に行われた。

◆商談案件については、今後、K-RIPのコーディネーター、ジェトロ、九州経済産業局等が、成約に向けて総合的にサポートしていく予定。



〔商談会風景〕

5. 「現地視察」

◆光大環境保護エネルギー(済南)有限公司

・中国光大国際有限公司が2009年7月に設立したゴミ焼却熱発電施設。

・同社は、エコ・環境保護・新エネを中心に急成長した企業で、江蘇省、山東省、福建省、広東省など各地で、ゴミ焼却熱発電、バイオマス発電、工業固形廃棄物の埋立、再生水利用等に取り組んでいる。



◆山東力諾瑞特新エネルギー有限公司(以下、力諾瑞特)

・同社は力諾グループとドイツのParadigma社が共同出資して誕生

・アジア地域では最大級の太陽エネルギー関連企業で、国内では山東省、河南省、上海市、海外ではキューバに生産拠点を持つ。

・力諾瑞特は、インドでは最大の太陽光エネルギーのサプライヤー、日本では太陽エネルギープロジェクト用ソーラーパネル・メーカー、韓国では真空管ソーラーパネル・サプライヤーの有力企業であり、世界60カ国以上で事業を展開するグローバル企業。

1. 山東省の経済概況と環境ニーズ

(1) 山東省の経済発展と環境問題

○中国山東省は全国第3位の経済規模を誇り、今後も毎年10%以上の経済成長が見込まれる。しかしながら、急速な経済発展の陰では汚染物質の排出規模が中国でも有数(特に二酸化硫黄等)であり、また、資源も乏しく(例:1人当りの水資源については全国平均の1/6程度)、経済成長の大きな足かせとなっている状況。加えて、第12次5カ年計画を踏まえ、厳しい環境規制が実施されるため、新たな環境ニーズが出現すると考えられる。

(2) 第12次5カ年計画期間中の山東省政府の目標、主なプロジェクト及び投資分野

○目標:2015年まで次の環境指標を2011年比で大幅に改善させる。COD(12%減)、アンモニア(13.3%減)、二酸化硫黄(14.9%減)、窒素酸化物(16.3%減)、大気と水資源の質は2010年比20%改善させる。

○プロジェクト:2015年までに山東省全省でCOD、アンモニアの排出削減分野で1,434個の個別プロジェクト、二酸化硫黄の排出削減で1,005個のプロジェクト、窒素酸化物で同904個のプロジェクトを実施予定。2020年までに山東省は汚染処理、環境基礎施設の建設、生態回復、生活環境改善面において5兆元以上の投資を行う予定。

(3) 顕在化する環境ビジネスニーズ

○大気・水質の浄化・環境修復(二酸化硫黄の排出削減、汚水浄化等)、省エネ設備、廃棄物処理(工業固形廃棄物、建築等廃棄物、生活ゴミの分別・堆肥化等再生利用等)、土壤汚染対策・河川の汚染対策。

2. 済南市の概要

(1) 省内での位置づけ

○済南市は、山東省の西部に位置し、省都として省内の通商、政治、文化の中心地。

(2) 経済概況

○人口:約570万人

○1人あたりGDP:49,954.75元(全国で21位)

○済南市は重工業(冶金鉄鋼産業、交通装備産業等)や軽工業(紡織、食品、医薬等)の企業が多く、中国有数の鉄鋼メーカーも存在。現在は、製造業だけでなく、保険や情報技術、通信、観光などサービス産業、ハイテク産業も急成長している。

(3) インフラ面

○済南市には全国的な高速道路ネットワークの中心があり、済南と青島を結ぶ済青高速公路、北京と福州を結ぶ京福高速公路、北京と上海を結ぶ京滬高速公路など、中国の南北軸と東西軸の交点があり、これらを結ぶ市内環状高速道路もできている。

○物流では高速道路や鉄道を使って青島港が使えるほか、内陸コンテナターミナルも存在。済南遥牆国際空港は国内各地を結んでいる。

○山東大学、済南大学、山東軽工業学院、山東科技大学等、高等教育機関・研究機関が多く集まっており、高度な知識、技術を持った人材が比較的多い。